

「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

| | |
|---------|-------------------|
| パイロット校名 | 本宮市立本宮第二中学校、岩根小学校 |
| 推進協力校名 | 本宮市立五百川小学校 |

本宮二中学区「学びのスタンダード」

本宮二中学区は、県内14地域で実施されている「学びのスタンダード」の事業推進地域として指定を受け、より質の高い授業を目指して校内研修の充実に努め、教員の授業改善、指導力の向上を図っている。

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

- (1) 現職教育の研究授業にて
 現職教育の研究主題に基づく研究授業の実践の際、「授業スタンダード」をもとに授業構想を練り上げるとともに、チェックシートを授業参観の視点として活用し、事後研究の活性化につなげた。
- (2) 日々の授業改善にて
 互いに授業を公開する「互見授業」を実践し、「授業スタンダード」をよりどころとして、その授業を参観した教師同士が指導方法を共有したり、授業の悩みを相談し合ったりした。
- (3) 学校生活全般にて
 「授業スタンダード」は、授業の基盤となる教師と子ども、子ども同士の「望ましい人間関係」を築く際の留意点、また、子どもが身に付けるべき「学習規律」やふさわしい「教師の姿勢」についても言及している。
 よりよい学級・集団づくりを目指し、学級活動・学校生活全般の指導にあたった。



[表紙]

[チェックシート]



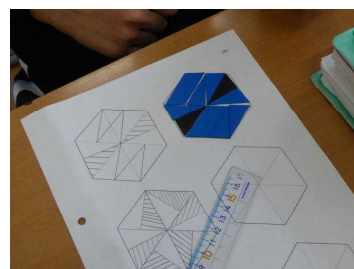
[授業スタンダード～授業の基盤は]

2 パイロット校の取組内容

- (1) 本宮第二中学校 ～数学科における「タテ持ち」の取組について
 3人の教師がT1として、3学年すべてを担当する取組である。この指導体制を生かすべく、学習内容の系統性を重視した指導を実践した。指導法など授業について定期的に話し合う時間を確保するために時間割に教科部会を設定し、3人の教師の協働による、より質の高い授業を展開できるよう努めた。単元構想から単位時間の構想、課題設定から生徒の活動、テスト問題・評価と教科経営に至るまで議論を重ねることができた。

| | A教諭 3年担当 | B教諭 2年担当 | C教諭 1年担当 |
|----|-------------|-------------|-------------|
| 3年 | 1組 | 2組 | 3組 |
| 2年 | 1組 | 2組 | 3組 |
| 1年 | 1組 | 2組 | 3・4組 |

[「タテ持ち」の担当学級一覧]



[1年 平面図形の単元協働による教材]

- (2) 岩根小学校 ～算数科における「教科担任制」の取組について
 第6学年において、中学校の指導体制を見据えるとともに、中学校進学に伴う学習環境の変化のギャップを軽減させることを意識して取り組んだ。
 具体的には、以下のとおり、第6学年で教師5名が指導を行う指導体制をとった。

| | 1組担任 | 2組担任 | 授業S推進教師 | 分科担当A | 分科担当B |
|------|------|----------|---------|-------|-------|
| 6年1組 | 国語科 | 算数科T1・T2 | | 音楽科 | 理科 |
| 6年2組 | | | | | |

〔「教科担任制」の担当学級一覧〕

3 推進協力校の取組内容

- (1) 五百川小学校～本宮二中学区学力向上委員会の実施
 地区の幼稚園、小・中学校に「教師のコーディネート力を磨く」を現職教育のテーマに全学級の授業を公開し、情報交換を行った。また、講演会では千葉大学特任教授である天笠茂先生に新学習指導要領の趣旨などを含めた授業のあり方についての講演をいただくなど、学区内の教職員に貴重な研修の場を提供した。
- (2) パイロット校Ⅰ・Ⅱ主催の研究授業参加
 パイロット校主催の研究授業へ参加するなど授業を数多く参観することで、「授業スタンダード」に対する共通理解を深め、地域全体の取組に発展させた。



〔天笠茂先生のご講演〕



〔家庭学習スタンダード〕

4 成果と次年度へ向けて

- (1) 成果
- ① 「授業スタンダード」の活用から
- 学区内小・中学校間において、授業を見せ合うことで、小・中を通じた地域全体の実態を把握し、共通理解を図ることができた。また、「授業スタンダード」を媒介にすることで、校種間・教科間の相違にかかわらず、共通の視点をもって、事後研究会を行うことができた。
 - 互見授業が教師同士の学び合いの場となり、授業改善・指導力向上に努めようとする教師同士の雰囲気醸成されてきた。また、教師の授業改善により、魅力的な授業が展開されることにつながり、子どもたちが学びに向かう意欲的な姿を見せるようになった。
 - 子どもを中心に考えた授業づくりへの授業改善と学級活動を充実をさせていく取組により、互いの違いを認め、尊重しながら、互いに助け合う望ましい人間関係が形成され、よりよい学級づくりにつながった。
- ② 算数・数学科の取組から
- 「教科担任制」により、学級数(2回)の授業を行うことで、同じ指導内容であっても、子どもの実態に応じて反応が異なるため、目の前の子どもに寄り添った授業展開の大切さを実感し、より意識して授業構想・指導改善に努めるようになった。
 - 「タテ持ち」の実施により、互いの授業を見合う機会が増え、教科部会の実施で話し合いも増えたことで、同僚性・協働性が高まった。もちろん、指導方法の共有により、授業改善に大きく役立っており、学力向上につながっている。
- (2) 次年度へ向けて
- 「家庭学習スタンダード」が配付された。子どもたちに家庭学習を通して「自己マネジメント力」を育むねらいがあるが、学校・家庭・地域のそれぞれの役割を想定し実践事項を検討する必要がある。
 - 小・中連携が叫ばれて久しいが、なかなか連携が進まない現状がある。学習・生活、思春期を迎える発達段階での児童生徒理解が進んでいないことが理由の一つとして挙げられる。地域として「学びのスタンダード」事業を推進することをよい機会とし、児童生徒理解を進めていきたい。



学びじよん

第 7 号

「学びのスタンダード」推進だより

不易と流行をつなぐ授業スタンダード

2学期が始まって1ヵ月が過ぎました。連日忙しい日々でしたが、先日、2年2組 松本真沙希先生が現職教育の全体授業を提供してくださいました。当日の授業だけでなく、事前の準備等々で大変ご苦労された真沙希先生に、一息ついたところで、今回の授業実践についてインタビューをお願いしました。



真沙希先生、全体授業お疲れ様でした。
大変お疲れのところかと思いますが、先生の”思い”が熱いうちにいろいろとお話を聞かせてください。
まず初めに、今回の授業を構想するにあたり、「授業スタンダード」をどのように活用されましたか？



現職のブロックテーマが「自分の考えを伝える力を育てる」でしたので、その伝え方や形態について、どのようなものが考えられるのか、また、全体での話し合いをコーディネートするために「机間指導」をどのようにしたらよいのかを参考にしました。



なるほど。机間指導で、先生が腰を落として子どもたちを「診る」姿が多く見られたのは、「授業スタンダード」からの学びを意識してのことだったのですね。意識して実践に取り入れていくとは、素晴らしいですね。

他にも、当日の授業だけでなく、授業で活用した掲示等の事前準備にも時間をかけていたことが分かり、「学び続ける教師」としての姿は大変勉強になりました。真沙希先生ご自身は、今回の実践を通して「何を学んだ」、「何ができるようになった」とお考えですか？



当たり前のことですが…、授業後の子どもの姿を想像し、「何を学んでほしいのか」、「身に付けさせたい力は何か」をよく考えることの大切さを学びました。よく考えることで、どのような発問をしたらよいのか、焦点化することにもつながりました。



完全に「できるようになった!!」とは言い難いのですが…、子どもたちの声をよく聴くこと、つなぐこと、自分が話しすぎないことをいろいろな場面で意識するようになりました。

そのためか、最近では、授業の時に誰かがつまずいても、「先生、〇〇ちゃんは、こうしたかったんだよ！」や「なんとなく〇〇ちゃんの気持ち、分かるよ。」と、子ども同士が話し出す場面も見られるようになりました。



真沙希先生の子どもを中心に考えた授業づくりが、子どもたちの人間関係の形成に大きくつながっているようです。2年2組の子どもたちが楽しく学校生活を送っている姿からも頷けます。

最後に、今後、授業づくりについてチャレンジしていきたいことは、どんなことですか？



今までの授業を振り返ると、その時の授業で学んだことをまとめるところまででいっぱいでした。ですが、「授業スタンダード」にもあるように、『新たな問い→学び』につなげていくことができるような授業をつくることができたら…と思います。



真沙希先生の課題意識に賛成です。1時間の授業を成功させることは可能かもしれませんが、本時の学びから次の「学びへ向かう力」を生み出すことは簡単なことではないのかもしれませんが、ですが、真沙希先生だけでなく、学校全体としてチャレンジしていきたいところでもありますので、今後の授業研究に取り組まれる先生方が、きっとその思いを引き継いでくれることと信じています。「頑張る学校、岩根小学校の教員」として!! もちろん真沙希先生も、今後も研鑽を積んでいただけたらと思います。ひとまずは、お疲れ様でした。

「授業スタンダード」の活用により「当たり前だけど大切なこと」を学び、授業の質を向上させた真沙希先生。「いい授業をしたい!!」という熱い思いが未来の教育を支えていくことに間違いはありません。



～ 岩根小学校「学びのスタンダード」推進だより 第 2 号 ～

授業は、子どもたちにとってかけがえのない時間

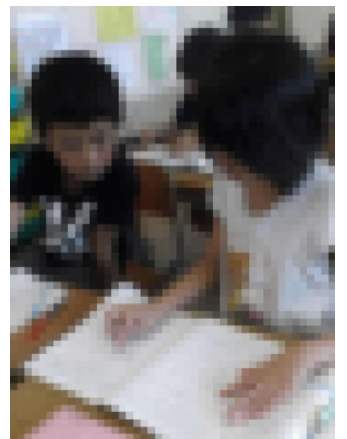
2学期が始まり1カ月が過ぎました。早いもので、平成29年度の折り返しに差し掛かり、子どもたちの学校生活も、さらに充実の時期を迎えています。お子さんの学校生活の様子、家庭学習の様子は、いかがでしょうか？

「学びのスタンダード」推進事業に取り組んでいる岩根小学校では、先生方の授業改善・指導力向上に努め、子どもたちと「いい授業」を実践していけるように、各先生方の授業研究会を実施しているところです。

「**授業研究会**」とは、先生方が授業を参観し、子どもたちの学習の様子や授業者の指導方法等について話し合う**先生方の勉強の場**です。おそらく、お子さんが「今日は、たくさんの先生達が授業を見に来た。」などと、ご家庭で話をされている時は「授業研究会」が実施されていたのだと思います。

本校の授業研究会には、毎回、県教育庁や県北教育事務所から指導主事の先生をお迎えし、先生方にご指導をいただいています。毎回の話し合いでの成果や課題は、次の授業研究会へ引き継ぎ、先生方一人一人が授業改善をしていけるように、岩根小学校全体で研鑽を積んでいるところです。

そして、これまでの成果を広く知らせることができるよう、11月13日(月)には、安達地区の先生方に授業を参観していただく公開授業研究会を開催する予定になっています。



効果的な家庭学習の実践へ

すでにご覧になった保護者の方も多いかと思いますが、「学びのスタンダード」事業の1つとなる「**家庭学習スタンダード**」についての情報が新聞に掲載されました。(右：参照記事)

まだ「素案」の段階ではありますが、記事によりますと、

- 家庭学習の計画を立てて取り組む**自己マネジメント力の育成**
- 授業と家庭学習を連動**させた取り組み
- 家庭学習における**読書活動の推進**

などの案が示されており、年内に完成を目指しているとのこと。

1学期に実施した家庭学習アンケートによると、岩根小学校保護者の方々の家庭学習に対する意識は協力的な傾向にあるとともに、学校の学習指導への期待も高い傾向でありました。

今後、県教育委員会の動向を注視しながら、家庭学習についても充実できるよう検討していきたいと思っております。

福島民友 2017

自己管理能力育成 授業との連動

「家庭学習スタンダード」素案の主な内容

- ▼自己マネジメント力を育成
- ▼授業と家庭学習を連動
- ▼家庭学習の習慣化を促進
- ▼宿題の出し方工夫
- ▼読書を生活の一部にする

県教委、年内配布へ

家庭学習の手引で素案

H29.8.31 福島民友

産地直送便06

Report
Event
Information



数学（大野先生）の検証授業が行われました。

<数学科>

3年3組 ～相似な図形～

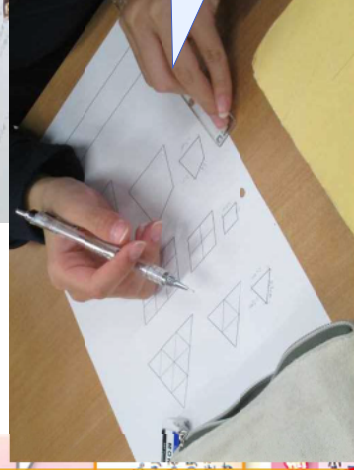
相似な図形の相似比と面積比の関係を見いだす授業でした。その関係を考えさせるため、「ガリバー旅行記」の小人の国編の一場面を「数学的に検証しよう」ということから課題の設定へと入りました。生徒の興味関心を喚起するのに相応しいアイデアでした。いただきます。



スタンダードにある「教材との出会い」… いい出会いです。



三角形や他の四角形でも、長方形の布団と同様に、2乗になるのかな？



今後・来年度に向けてのご指導

- 生徒の興味・関心をひく、よい課題だった。
- 課題解決の場面では、生徒同士が話をする、教え合う考えを深めるようなコーディネートが必要である。
- 今日の授業で何がわかったかを振り返らせるために、まとめが重要である。
- 学習活動とねらいが合っていたか。

導入 子どもの「問い」

きっかけ

- ・ 部活までのノートや掲示物 など
- 実演を振り返り入れましょう。
- ・ 動画による実験などの実演・実演
- 子ども自身が発見する活動 など
- 子どもとの対話を大切にしましょう。
- ・ 生活経験や既習事項を想起させる対話 など

「教材との出会い」が何は出す【主体的な学び】

- 教材との出合わせ方を工夫し、興味・関心を高め、「面白い」や「面白い」を引き出します。
- ・ 「面白い・面白い」子どもがへーとしたらと思うこと
- これらは「主体的な学び」への原動力となるものであり、自ら課題を見いだそうとする態度を育むことにつながります。

<学習課題の条件>

- 子どもの実態に即している
- 子どもにとって身近で分かる
- 学習への興味・関心を喚起する
- 適度な難易度で、解決への多様な考え方や解法などがある
- 子どもにとって過渡期解決が容易である

考えてみたい!

おもしろい! やってみたい!

なぜ? 不思議だな。え? どうしてなの?

解いてみたい!

これって、どういうこと? 調べてみたい!